

KOKUSAI

発行：国際運輸株式会社 VOL. 23



代表取締役社長

前田 和隆

Kazutaka Maeda

「当たり前前のことをきちんと」
そして「報連相」を怠らず、
明るい職場の雰囲気づくりを

二年ぶりの社内報が出来ました。改めて前号の自分の原稿を読み返しましたが、会長が亡くなって間もない時期でもあり感傷的になっていたことが今になるとよくわかります。その中で社員の皆さんにはこの先多くの困難が待ち受ける時代を乗り越えるべく奮起をお願いしましたが、現在はまさかのコロナ禍!! 不可抗力であるこの受難の時期の中でも事業を続けていられるのは間違いなく皆さんの努力の賜物です。心より感謝を伝えたいと思います。

さて、全世界がパンデミックに陥り丸一年間が過ぎてしまいました。未だにしっかりとした出口が見えない状況が続いています。未知のウイルスなので誰にでも効く特效薬の開発に時間がかかるのは仕方のないことだと思いますが、ワクチンにしろ特效薬にしろ、国家予算並みの利権が絡んでいるため様々な思惑が入り乱れ、各国や各製薬会社の協調が出来ていないところに大きな問題があるのではないかと思います。

これからの社会の様々な活動が制限される以上、わが社の仕事も影響を受けることは避けられませんが、飲食業や旅行関係等の悲惨な状況に比べるとまだましなほうでしょうから、ネガティブなことばかりを口にしても始まりません。実際、コロナ禍「ならでは」のアイデアを出して、以前よりも利益を伸ばしている会社は沢山あります。普段とは違った目線で仕事や身の



回りを見直してみましよう。

一人が一つでも良いアイデアを考えれば、全体的には何十項目もの改善策や効率アップが出来る可能性があります。

そしてわが社の社風でもある「当たり前のことをきちん」とは今後も最も大切にしていかなければなりません。挨拶や身だしなみは勿論、「報連相」を絶対に怠らないことも最重要項目です。更に他社には見かけない笑顔手当の「笑顔」も大切な行動の一つです。外部からの影響で会社が大変な状況に陥った時は、皆が一致団結して頑張ろうと心を一つに出来ますが、内部から問題が発生すると気持ちがバラバラになってしまいます。でも無理に笑えと言っているのではありません、明るい職場の雰囲気作りが大切なのです。

思い返せば二十四年前、私が入社した時の会社（事務所）は完全に二つに分かれていて、ぞっとするような陰湿な

雰囲気でした。私は耐え切れず

に少しでも雰囲気を変えようと、自分のラジカセを持ち込んで BGM をかけたりもしましたが、来訪者に「銀行のロビーみたいですね」と言われて直ぐにやめた事もありました。その頃の運輸部は米軍とアツギナイロンの仕事だけやっていれば十分に利益の出る時代で、幹部が一丸となっていれば今頃は会社の規模がかなり違っていたかもしれません。しかし今更昔の愚痴を言っても仕方のない事。これからの困難な時代に対応できる若く頭の柔らかい人材の確保と、様々な個性を持つ社員がお互いに学び合い知恵を出し合う、完全なる一枚岩の組織作りを目指したいと思います。皆さんの協力を心からお願いします。

最後に私の趣味の話になりますが、五十年の歴史がある佐世保のジャズバーの老舗 EASEL の前オーナーが昨年の五月に急逝されて、コロナ

禍で後を継ぐ方がいない状況が続いたため、厳しい運営になるのを覚悟で私がオーナーとなり、経営は会社で行うことを決めました。幸い通常の営業は以前から勤務していた志田原さんに店長を引き受けてもらえましたし、常連のお客様にはこんな時期でも来て頂けているので本当にありがたいです。

それから春と秋の天気の良い日曜日に、密とは無縁な佐世保駅港口からすぐの岸壁エリアで行う「海辺のコンサート」なる無料の野外コンサートの開催もわが社の社会奉仕の一環です。朝長市長をはじめ市の文化振興課や一般の音楽ファンからも高い評価を頂いており、歴史のある佐世保のジャズを大切にしながら、佐世保への来訪者や一般市民の方が気楽に楽しんでもらえる佐世保ならではのイベントとして定着させていきたいと願っています。社員の皆さんも暇を見つけて EASEL や海

辺のコンサートを是非体験してみてください。



JAZZ SPOT EASEL



佐世保 JAZZ 海辺のコンサート





専務取締役

中園 嘉臣

Yoshiomi Nakazono

止まない雨はない

令和 3 年を迎えました。

去年は、春先からコロナの渦に世界が巻き込まれ、惨憺たる 1 年でした。更に今年に入り、その渦は大きくなり、地方まで巻き込んできたようです。

当社においては、好調なみかんを軸に色々な分野に営業を展開していきたいところでしたが、年初より各地で非常事態宣言が発出し、色々な所を訪問するのさえ憚られます。また、多岐な業種に亘り影響を及ぼし、いつ終息するのか分からない状況が続いています。従前からの営業は、フェイス T0 フェイス、訪問を繰り返す事によって、ようやく契約にたどり着くと言われてきました。しかし、現在においては、ネット上

で PR し、人が電話で話す事なく、パソコン上で契約が成立しています。いつ迄続くのでしょうか。1 年、2 年、いや 3~4 年という人もいます。

また、終息後もフェイス T0 フェイスから離れた商売のやり方は続くという人もいます。

情報によると、約 8 割の業種及び会社がコロナ禍の中業績が低迷し、残り 2 割が影響を受けていないか、むしろ伸びているとの事です。業績がいいのはどんな業種でしょうか。スーパー、パソコンのメーカー、空調関係・・・これも多岐に亘ります。運送関係についても、巣ごもりのせいで、宅配便等は大忙しとの事です。当社みたいなチャーター便を主にしている会社は、減収を余儀なくされています。

但し、いつまでもこの現状が続くとは思いません。当社の顧客である製造業をはじめ、多くの会社がコロナでの厄災が過ぎるのを待っています。

また多くの会社は、コロナ後になっても運送による事故というリスク、車輛への設備投資というリスクを回避する姿勢に変化はないと思っています。

降り止まない雨はないと言います。もうしばらく辛抱し、今出来る事をやりたいと思っています。



お客様の最高の満足をめざし、 次の世代へ繋ぐバトン

昭和 63 年に入社以来、引越作業、倉庫担当、佐世保基地内の事務所の業務などを受け持った後、現在、運輸部・梱包部の業務責任者として務めています。

入社当時の梱包部は、SSK 佐世保重工の東門沿いに現在建っている米海軍佐世保基地 Bldg. 1651 冷凍倉庫や補給倉庫はまだ建設されておらず、付近は古い民間のレンガ倉庫が幾つも立ち並び、その一部が当社の倉庫兼、梱包部引越部隊の拠点となっておりました。針尾の米軍住宅第 1 期分（500 世帯）が完成したのもその頃で、ルーキーの私は引越の搬入作業で忙しい針尾の住宅へ毎日のように予定が組まれていて、そこで随分ヘトヘトになったものでした。

それから数年後、広田町の国際運輸本社場内に通称 GBL（民間扱い軍貨物）専用倉庫が米軍引越業務の請負元である福岡倉庫様のご依頼によって建てられ、少しずつ今の形となっていきましたが、現在では取扱量の増加のため、隣接する企業様で富士商工様所有の大規模な倉庫をご提供いただき、通称 GBL 倉庫は、広田地区の金属団地内にも構えられています。

国際運輸は昭和二十八年に米軍の物資輸送や米軍人の引越業務を目的として設立された会社ですが、最近ではそこで培った技術やマンパワー、それと会社の基本理念（全てのお客様にきめ細かなサービスを提供する）を活かし、地元農産物の輸送他、精密な機械製品の輸送まで、幅広く視野を広げて業務を展開しております。

しかし、今まで事業を展開してこられたのは、亡き会長をはじめとする先輩方々の礎と、当社へ長年に渡り絶対の信頼をお寄せいただいているお客様の力添えに違いはありません。勿論、今の同僚スタッフの頑張りには大変うれしい評価も頂いておりますが、長い国際運輸の歴史の中で、今バトンを渡された私たち、ここは決して油断をすることなく、次の世代のために気を引き締めて繋いでいきましょう。

創業者前田会長の言葉の一つに、「お客様の最高の満足をめざし全力で取り組む。」という言葉があります。これは現在トラックの後部ドアに「Aiming at the highest customers satisfaction with all possible efforts.」として英語と日本語で記されています。点検の際に改めて読み直してみてください。

ところで、久しぶりの原稿依頼で何を書こうかと考えているうち、ふと自身の入社当時の事を思い出し、苦い経験や、うれしい思い出に触れる事が出来ました。たまには一旦立ち止まって、自身を振り返ってみるのもいいものですね。

それについてはまた次回、機会があれば紹介したいと思います。



取締役統括本部長

萩坂 貴徳

Takanori Haggisaka



初心の気持ちと向上心を忘れず、 日々の業務に努める

日々の業務お疲れ様です。

私が国際運輸に入社して、18 年が過ぎようとしています。入社してからは、主に現場での作業を行っていましたが、約 1 年半前からベース内の事務所に異動となり業務に努めています。

異動してからは、今まで現場作業しか経験した事のない私にとっては、何もかも初めての業務内容ばかりで周囲には迷惑をかける毎日でした。最近では、業務にも慣れ効率よく作業を行えるようになったと感じていますが、米軍の作業内容において、まだまだ覚えなないといけない事が多くあります。

今後も入社した時と同じ、初心の気持ちと向上心を忘れず日々の業務に努めて行きたいと思っています。

最後に、コロナウイルスの感染が佐世保でも広がっていますので、社内で感染者が出ない為にも、感染予防対策に心掛けましょう。



梱包部 課長

福田 将吾

Shogo Fukuda



梱包部 係長

小島 祐輔

Yusuke Kojima

管理をする重大さ、そのため 日々の努力と様々な事への意識

毎日の業務お疲れ様です。

私はこの国際運輸に入社して 23 年が経とうとしています。入った当初は、毎日ただ引越をして 1 日が終わるという感覚でした。20 代半ばになると、班長職として作業をする事になり、英語もほぼ分からない状態でのスタートでしたが、現場の数をこなし年数が経つにつれ、英語の理解力も増えてきました。その中でお客様に満足して頂きたいという気持ちが出て、少しながらも評価して頂けるようになりました。今では管理職を任せてもらい、人を動かす難しさ、様々な管理をする重大さを感じ、日々勉強しております。

若い同僚が増えてきた今、今後この国際運輸で長く過ごして頂きたいと思う中、その環境作りをしていきたいと思っています。日々の努力が自分を大きくしていく事、また人に対しての接し方など、様々な事に意識を持って日々の業務を行っていきたくと思っています。



お客様と接することから学ぶ、 コミュニケーションの重要性

入社して 15 年、色々な業務に携わらせていただきました。

最初は戸惑いもあり失敗もありました。何度も失敗し身に付けたものも多くあります。その中でも 5 年前から“みかん”のシーズンには、みかん選果所の業務をしております。一日中お客様と接して改めてコミュニケーションの大切さを実感いたしました。

社内におけるコミュニケーションについて調べてみたところ、3 つの改善効果が期待できるそうです。1 つ目は離職率・定着率、2 つ目は業務効率、3 つ目は社員満足度だそうです。部下や上司とのコミュニケーションをよく取り業務が円滑に進むように、また、楽しい職場になる様にしたいと思います。

私も、まだまだ分からない事などありますので、何事にも挑戦し一生懸命頑張っていこうと思いますので、よろしくお願いします。



梱包部 係長

平田 一孝

Kazutaka Hirata



管理部 主任

千葉 博樹

Hiroki Chiba

システム管理の知識を活かして 会社への貢献

入社して、2 年が経ちました。自己紹介までに、主な趣味は「一眼レフでの風景撮影」「バドミントン」「自転車」「釣り（陸に限る）」「アニメ鑑賞」です。最近は、コロナ禍とは関係なく太り気味で、焦っています。

さて、前職では、環境調査とシステム管理を約 24 年、併せて管理職を務め、その後、自分が置かれている状況下で自分に合っている職業は何かと思った時に、長距離輸送乗務員に挑戦したく、入社しました。

運輸部へ配属となった矢先、未経験者であった私は、現場で立会時に後進誘導で掛け声を言っていた時、先輩から突然叱られました。「後進誘導で、車両の真後ろに居るな！もし、車両誤動作した時に、荷物と車両に挟まれて大事故になるぞ！」直ぐに事の重大さに気付き、運送業に対する無知さを痛感しました。その後、システム管理の知識を当社に活かせないかということがあり、1 年前から管理部に異動しました。

職種が変わり、業界未経験な私にとって迷いも沢山あるのですが、上司、諸先輩に指導を受けながら当社に貢献出来るように励みたいです。



良き同期と切磋琢磨して仕事に励む

私が梱包部に配属になって、早いもので1年が経とうとしています。

私は引越しの仕事や外国人の方と関わる事は初めてで、右も左も分からなかったですが、優しい先輩方に梱包が分からない時には優しくご指導していただき、英語が分からない時にも優しく教えていただき、少しずつではありますが仕事を覚える事ができました。

今後は後輩もできると思うので先輩方に教えていただいた事を教えていきたいと思います。

また、良き同期にも恵まれて良い刺激を受け、切磋琢磨して仕事に励む事ができています。まだまだ未熟なので先輩方にはご迷惑をお掛けするかもしれませんが、一生懸命頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



梱包部

林 孝昭

Takaaki Hayashi



梱包部

寶亀 達郎

Tatsuro Hoki

トレッキングで培った体力も活かし 早く皆から頼られる存在に

昨年の3月に入社して早1年が経とうとしています。

少しずつ仕事にも慣れてきたかなと思います。入社した当初は、右も左も分からず、怪我をしたりと迷惑をかけましたが、今では後輩も出来たのでしっかりと後輩の模範となるように努力していきたいと思っています。

私の前職は車関係の仕事で車のコーティングや磨きなどを担当していました。車のキズやコーティングの事は多少詳しいので答えられる範囲は答えられるので声掛けてみてください！

あと、趣味はトレッキングで暇な時は色々な山を登っています。

最後に、今後の仕事での目標は先輩方に追いつけるように1日でも早く仕事を覚えて、頼られるような存在になりたいと思います。



向上心を持ち、全集中で日々の業務に取り組む

時が過ぎるのは早いもので、入社して1年が過ぎようとしています。
諸先輩方や上司のおかげで、梱包の仕事にも慣れてきた頃ですが、向上心を持ち、全集中で日々の業務に取り組む所存です。

さて、原稿を書いていると思い出したことがありましたので、お話しします。初出勤の朝に、我が家の鶏が初雄叫びをあげ、門出に背中を押してくれた奇跡のような話なのですが、卵が食べたかった私は「お前は、雄鶏だったのか・・・」と言い放ち、出社したのを覚えています。

これからは、梱包はもちろんですが、ローディング時にまだ時間が掛かるのもっとスピーディーにできるようになりたいです。

これからもご指導の程よろしくお願いします。



梱包部

中島 誠

Makoto Nakashima



梱包部

宮里 孝志朗

Koshiro Miyazato

筋力アップとローディング技術の向上を目指す

私が国際運輸に入社してからちょうど半年が経とうとしています。

私はこの仕事が最初の職場であり、最初は分からない事がたくさんあり、1~2ヶ月間くらいはついていくので精一杯でした。しかし3ヶ月くらい頃から先輩方に教わった事が段々分かるようになってからは、仕事も楽しくなってきて、前よりは仕事のスピードも上がってきたと実感しています。それでも、まだまだ失敗する事もあるし、迷惑をかけてしまう事もあるので、それを無くすために先輩に教わった事は忘れずに、同じ間違いをしない、そして1月でも早く仕事の出来る先輩方に近づけるような社員になりたいと思っています。

今年の目標は、筋力のアップとローディング技術の向上を目指していくことです。国際運輸が私の事を必要とする人材になれるように、日々頑張っていきたいと思いますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。



地域の発展と共に、お客様から 選ばれ続ける企業であるために

本年から入社しまして、ようやく社風や専門用語にも慣れてきました。現在は梱包部の事業全般を把握することに努めていますが、顧客の実態に柔軟に合わせ丁寧かつ素早く梱包して活躍されるパッカーの皆さんを見てみて、当社は実は立派な“モノづくり企業”だなと感じています。商品の内容や工程は異なりますが、他の製造企業とも決して引けを取らないのではないのでしょうか。

物流業界は特に人材が宝と言われていますが、もっと当社の実態を視覚的にPRすることで今後の人材確保、さらには企業ブランドの向上に繋げることが肝要だと認識しています。価格競争とは別に理由があって、お客様に選ばれる企業であり続けるべきではないのでしょうか。

まずは外部環境の好転が必要不可欠ですが、この地域は今後10年間で大きく経済環境が変化するチャンスを秘めています。地域の発展と共に多様化する社会に歩調を合わせていけるよう、微力ながら会社に寄与するため自己研鑽に励みたいです。



管理部 係長

松永 英樹

Hideki Matsunaga

国際運輸㈱で行われている日常の様々な出来事をご紹介します。

KOKUSAI Information



還暦御祝い

2月1日(月)前田社長、奥様の還暦に伴い、役員社員で御祝いのプレゼントをお渡ししました。今後もお体をお大事に、楽しい人生をお過ごし下さい！



梱包部合同会議

1月25日(月)福岡倉庫㈱佐世保営業所長の石橋茂貴様にお越しいただき、梱包部社員参加による合同会議を行いました。



陸上自衛隊引越説明会

2月8日(月)、9日(火)陸上自衛隊相浦駐屯地において引越説明会が開催されました。梱包部から2名が参加し、見積希望者への説明を行いました。



人生の中のほっと温まるお話です。

Heartwarming Story ～縁を活かす～

その先生が5年生の担任になった時、一人服装が不潔でだらしなく、どうしても好きになれない少年がいた。中間記録には、先生は少年の悪いところばかりを記入するようになっていた。ある時、少年の1年生からの記録が目止まった。「朗らかで、友達好きで、人にも親切。勉強が良くでき、将来が楽しみ。」とある。間違いだ。他の子の記録に違いない。先生はそう思った。2年生になると、「母が病気で世話をしなければならず、時々遅刻をする。」と書かれていた。3年生では、「母の病気が悪くなり、疲れていて、教室で居眠りをする。」後半の記録には、「母親が死亡。希望を失い、悲しんでいる。」とあり、4年生になると「父は生きる気力を失い、アルコール依存症になり、子供に暴力をふるう」先生の胸に激しい痛みが走った。ダメと決めつけていた子が突然、深い悲しみを生き抜いている生身の人間として自分の前に現れて来たのだ。先生にとって、目を開かれた瞬間であった。放課後、先生は少年に声をかけた。「先生は夕方まで教室で仕事をするから、あなたも勉強していかない。わからないところは教えてあげるから。」少年は初めて笑顔を見せた。それから毎日、少年は教室の自分の机で予習復習を熱心に続けた。授業で少年が初めて手を挙げた時、先生は大きな喜びを感じた。少年は自信を持ち始めていた。クリスマスの午後だった。少年が小さな包みを先生の胸に押し付けて来た。あとで開けてみると、香水の瓶だった。亡くなったお母さんがつけていたものに違いない。先生はその一滴をつけ、夕方少年の家を訪れた。雑然とした部屋で本を読んでいた少年は、気が付くと飛んできて、先生の胸に顔をうずめて叫んだ。「ああ、お母さんの匂い、今日は素敵なクリスマスだ。」6年生では、先生は少年の担当ではなくなった。卒業式の時、少年から先生に1枚のカードが届いた。「先生は僕のお母さんのようです。そして、今まで出会った中で一番素晴らしい先生でした。」

それから6年が経ち、カードがまた届いた。「明日は高校の卒業式です。僕は5年生で先生に担当してもらってとても幸せでした。おかげで奨学金をもらって医学部に進学する事が出来ました。」10年を経て、またカードが届いた。そこには先生と出会えた感謝と、「僕は5年生の時の先生を今でも思い出します。あのままダメになってしまう僕を救って下さった先生を神様のように感じます。大人になり医者になった僕にとって、先生は最高の先生でした。」そして、1年後その子から結婚式の招待状が届いた。そこには「母の席に座って下さい」と書き添えられていた。

人は無数の縁の中で生きています。たった1年間の先生との縁。この少年はその縁に無限の光を見出し、それからの人生を生きた。与えられた縁に気付かない人も多い中、感銘を受けた例を紹介しました。

◎ 編集後記 ◎

新型コロナウイルスの感染終息が見通せない中、巣ごもり需要が広がっています。フードデリバリー、ECサイトでの買い物、オンライン会議、動画配信サービスの利用……。私たちの日常行動が変化し家庭で過ごす時間が増えることで、改めて気づかされることもあるのではないのでしょうか。日常生活に戻るまで、もうしばらく時間がかかるようですが、今を楽しんで生活していきたいものですね。

(編集部)

3月

Happy Birthday
おめでとうございます!

3月8日 運輸部 福崎 徳一さん
 3月22日 梱包部 岡 良彦さん
 3月24日 梱包部 藤木 千春さん
 3月27日 梱包部 寶亀 達郎さん
 3月28日 運輸部 高木 誠也さん





Aiming at the highest customers satisfaction with all possible efforts.